令和６年度　市川市立図書館評価報告書

令和８年３月

１．趣旨

この報告書は、「図書館法」（昭和25 年法律第118 号）第７条の３、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24 年文部科学省告示第172 号）、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」（平成21 年教育委員会規則第６号）第１条の２及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」（平成６年教育委員会規則第９号）第２条に基づき、令和６年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

２．評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第３章 実施計画編（令和６年度～令和７年度）の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、令和６年度の市川市立図書館の評価を行った。

３．評価の基準について

市川市立図書館の「7 つの施策の方向」の各項目について、取り組み内容と目標値の達成度を総合してＡ～Ｄの４段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3 つの柱」についての取り組みを４段階評価で表した。(3 つの柱と７つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7 を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。）	A
概ね達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。）	B
やや不十分だった。（実施したが、十分な成果をあげることができなかった。）	C
不十分だった。　（実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。）	D

４．自己評価結果

令和６年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の３つの柱のうち「情報拠点として市民の学びを支える図書館」、「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」の２つについては、目標を達成することができＡ評価となった。「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、ボランティア活動団体等と協力し様々なイベントを実施したほか、大学での予約受取の再開や関連施設の開館時間拡大などにより、北部地域の図書館サービスの充実を図ることができた。また、「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」については、地域行政資料の積極的な収集を引き続き行うとともに、行政の窓口として必要な行政情報を市民に提供することができた。

「子どもの成長をサポートする図書館」については、子どもたちと新たな本との出会いを創出するイベント等を実施したが、読書相談件数や学校図書館への配送冊数が目標値未満であったことからＢ評価となった。

全体としては、昨年度と同様に７つの施策の方向のうち４つがＡ評価、３つがＢ評価であったが、令和６年度の目標は概ね達成でき、一定の成果をあげたと評価できる。

５．令和６年度市川市立図書館評価に対する外部有職者からの意見　…詳細は別紙

外部有識者２名（図書館情報学）から、令和６年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

令和 6 年度 「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

総合結果

1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

令和 6 年度は中央図書館のある生涯学習センターが開館 30 周年を迎え、ボランティア活動団体等と協力し、様々なイベントを実施した。コロナ禍で落ち込んでいた図書館有効登録者数は、コロナ禍前とほぼ同水準にまで回復した。

また、コロナ禍で休止していた大学での予約受取の再開や関連施設の開館時間拡大などにより、北部地域の図書館サービスの充実を図ることができた。資料費は前年度より増加したが、大幅減額前には未だ戻っていないため、今後も必要な図書費の確保に努め、資料の充実を図っていく。

2. 子どもの成長をサポートする図書館

評　価	□A〔十分達成できた〕	■B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

「市川市子どもの読書活動推進計画」の第二次計画に基づき、子どもたちと新たな本との出会いを創出するイベントや外部機関と連携したイベントを実施した。また、大人への読書相談として、保護者対象の講座を継続して実施した。ヤングアダルトサービスでは、夏休みに県立高校の生徒による絵本の読み聞かせ会を実施し、好評だった。

今後も子どもの発達段階に応じた様々な取り組みを実現し、積極的に読書支援、図書館利用の促進に努めていく。

3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

地域行政資料の積極的な収集により、蔵書冊数は目標値を大きく上回ることができた。また、継続的に行政各部署と連携した行事や展示を行い、必要な行政情報を市民に提供することができた。

引き続き地域行政資料の整理を行い、パスファインダーの作成やホームページの活用等、広く市民が利用できるような環境を整備していくとともに、地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保が必要である。また、行政各部署に向けた図書館機能についての周知に努め、利用を促進する取り組みを図っていく。

令和 6 年度の取り組み内容

一つめの柱　情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向　1－(1)「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替えによる蔵書の適正な維持（購入と寄贈の合計冊数）	50,000 冊	36,774 冊	B
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・検討	調査・検討	
	・障がいの特性に応じた資料の収集と目録の整備（読書バリアフリー計画の策定）	策定	策定準備	
③効果的な蔵書管理	・全館的なICタグによる蔵書管理の効率化と業務の改善	実施	実施	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の設置と活用	可動式書庫の活用	可動式書庫の活用	

実績と評価

コロナ禍で大幅減額となった資料費については、利用状況等を調査の上予算要求を行い、6 年度は前年度比 1.15 倍となり、資料の購入冊数も 4,118 冊増とはなったが、資料の平均単価が上昇しているため目標値には届かなかった。電子書籍については、市川駅南口図書館で既に貸出を開始しており、中央図書館では雑誌の電子版等のサービスについて調査検討した。IC 機器は 6 年間のリース期間が満了し、再リースとなっているため、次期更新について検討を進めた。

課　題

資料費が増加したが、まだコロナ禍以前には戻っていないため、市民のニーズに応えられるように十分な資料予算の確保が必要である。紙媒体から電子版発行に切り替えとなる雑誌もあり、雑誌の電子版等のサービスの導入等についても検討していく必要がある。

方向性

限りある予算を有効に活用し、蔵書のバランスを考慮したうえで、市民要望に応じた的確な資料選定を引き続き行う。また図書館が機能していくために必要な資料数等について根拠を明確にし、資料予算の確保に努めていく。

施策の方向　1－(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンス事例集及びレファレンスツール（パスファインダー等）の発行	15 点	17 点	A
	・レファレンス協同データベースの事例提供	100 件	80 件	
	・市民の学習要求や調査研究に応えるデータベース等の提供及び利活用の促進	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・図書館ホームページ、デジタルコンテンツ等の情報環境の整備	整備・実施	実施	
	・非来館型サービスについての調査及び導入の検討	検討・実施	検討・実施	
③生涯学習機会の拡充	・中央図書館及び地域図書館、自動車図書館の特性を活かしたサービスの拡充と PR による利用の促進（図書館有効登録者数の拡大）	87，000人	91，917人	
	・イベントの開催や地域イベントへの参加・協力	実施	拡大実施	

実績と評価

レファレンスサービスは、全体では 42,740 件と、前年度の 42,793 件より微減となったが、メールレファレンスにおいては利用の定着が見られ、調査に時間を要するものも多くなった。事例集である「あれこれふぁ」を 11 回、パスファインダーを 6 号発行した。レファレンス協同データベースの事例提供件数については、目標値は下回ったものの、データ登録数が選定基準を満たし、国立国会図書館から 16 回目の感謝状を受け取った。

コロナ禍で落ち込んでいた図書館有効登録者数は、前年度より 6,117 人増の 91,917 人と目標値を大きく上回り、コロナ禍前の 2 年度とほぼ同水準となった。

また、生涯学習センターが開館 30 周年を迎え、様々な記念イベントを実施したほか、市民協働の取り組みとして、2 年目となる「市民提案型推し活企画」では、16 件のイベントや展示が行われた。

課　題

誰もが利用しやすい環境を目指し、非来館型サービスの導入・運用について検討を進めるとともに、自動車図書館の特性を活かしたサービスを拡充することで、図書館未設置地域における図書館機能を補完していく必要がある。

方向性

未所蔵リクエストやインターネットによる図書館利用券の更新手続きなど、システム更新にあわせ非来館型サービスの運用について検討するとともに、システム面・コスト面・職員の作業量において負担とならない形で、来館型・非来館型サービスのバランスのよい実施を目指していく。図書館未設置地域においては、自動車図書館の増車を検討し、機能的・機動的なサービスの提供に努める。

施策の方向　1－(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関係機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	・関連施設との連携及び北部地域の図書館サービスの充実	実施	実施	A
②大学図書館との連携と利用の促進	・市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施（88 件）	
	・市内大学及び大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互 PR と利用の促進	実施	実施	
	・大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施	
③ボランティアとの連携強化	・図書館友の会等と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施	実施	
	・障がい者サービス関連のボランティアと連携した、障がい者向け資料の作製と収集	実施	実施（28 点）	

実績と評価

大野公民館図書室は、昼休み時間の休室を開室とし、北部地域の拠点として利便性を高めた。市内大学との連携について、和洋女子大学とは、インターンシップの学生を 1 名受入れたほか、中央図書館で学生対象の見学会を実施し 9 名の参加があった。千葉商科大学付属図書館はコロナ禍の入構制限が解除され、紹介状発行、予約の受取りを再開した。生涯学習センター開館 30 周年と同時に設立 30 周年を迎えた図書館友の会とは、記念行事のリサイクルブック市を共催し、バナーや記念品などの協力があった。障がい者サービス関連のボランティア作製の点字資料や DAISY 図書など 28 点の受け入れを行った。

課　題

関連施設等のサービス拡充について、より効率的、効果的なサービスについて、コストも含めて方向性を検討する必要がある。ボランティアとの連携は、図書館とボランティアの双方にとってよいかたちとなるよう、関係機関と協議を進めていくことが課題である。

方向性

関連施設と連携し、北部地域の図書館サービスの充実を目指す。また、大学図書館やボランティア活動団体と協議を進め、連携事業の拡大や協力体制の維持に努めていく。

二つめの柱　子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向　2－(1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新（購入と寄贈の合計冊数）	9,000 冊	8,502 冊	B
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施（読み聞かせの会の参加人数）	1,000 人	2,201 人	
	・推薦図書の紹介や読書に関わる情報の発信（推薦図書リストの新規作成数　ヤングアダルトサービス含む）	4 件	4 件	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についてのレファレンスツールの整備（子ども向け調べ方案内の新規作成数）	2 件	2 件	
	・子どもの本についての読書相談等の実施（児童書に関する相談件数）	6,400 件	6,104 件	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中高生の学習、生活、進路等の課題解決を支援するための図書や情報の提供	実施	実施	
	・図書館と中高生を結びつける行事の実施や刊行物の発行とその PR	実施	実施（31 回）	

実績と評価

児童書の受入れ冊数の達成率は目標値の約 94.0%と昨年度より上昇したものの、資料の単価上昇もあり、目標値には達しなかった。

行事の実施については、定例の読み聞かせ会のほかに、夏休みの宿題等に役立ててもらうために「あなたの「調べたい」を応援します！」を開催し、調べ方やまとめ方を説明した。また、メディアパーク市川 30 周年記念イベントとして絵本作家の宮本えつよし氏のワークショップ「おばけファッションショー」を開催、74 人が参加し好評を得た。パスファインダーは、米と伝統工芸について取り上げた。乳幼児の保護者を対象に、子どもへの本の読み聞かせの仕方や読書の楽しさを伝える講座「はじめまして赤ちゃん絵本」を昨年度に引き続き実施した。

ヤングアダルトサービスでは、夏休みに県立市川南高等学校、保育コース生徒による「いちなんえほんの会」を実施し好評だった。図書館やYAコーナーをPRするボランティア「YAサポーター」活動は、5回実施し、延べ 29 名が参加した。またYAルームに受験対策用の本を集めた棚を設置し、館内で自由に活用できるようにした。

課　題

乳幼児サービスの展開や、子どもの保護者に向けたPRを実施することが引き続き課題である。また、寄贈本を積極的に受け入れるなど、資料を充実させる必要がある。

方向性

「市川市子どもの読書活動推進計画」の第二次計画に基づき、引き続き子どもの発達段階に応じた様々な取り組みを実現していく。レファレンスや読書相談においては、保護者向けの講座などの他、フロアワークでも利用者に声かけをしていく等、日常業務の中でも細やかに対応していく。

施策の方向　2－(2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・出張サービスの実施回数	15 回	11 回	B
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力（配送図書冊数）	37,000 冊	30,049 冊	
	・外部機関等と連携した児童・青少年サービスの実施・充実	実施	実施	

実績と評価

出張おはなし会は、保育園、幼稚園、小学校等で計 11 回実施したが、小学校からの依頼は2回とコロナ禍前の件数までは達していない。学校図書館向け貸出用資料は、購入冊数を増やし、不足分野の補充を行った。「学校図書館支援センター事業」については、学校図書室貸出分を含めた全体の配送図書冊数は減少したものの、中央図書館の配送冊数は昨年度 3,095 冊から 4,795 冊と増加した。中学校、高等学校から借用した生徒作成のPOP等の館内展示は継続して実施した。他機関との連携イベントとして、現代産業科学館の企画展にあわせた展示や読み聞かせのほか、株式会社 CHINTAI との共催イベントとして「えほんパントマイム」を実施した。

課　題

学級文庫の貸出のやり方を見直し、資料を更新していくことが課題である。また、図書館利用の促進のために、他機関との効果的な連携実施や学校等に出張おはなし会や学級招待の利用を働きかけることが引き続き必要である。

方向性

「市川市子どもの読書活動推進計画」の第二次計画に基づき、学校のほか、市内の子ども子育て施設等を通して、子どもと保護者に向けて読書の大切さを積極的にPRすることで、読書支援、図書館利用の促進を図る。学校への資料の貸出や学級文庫は、引き続き資料の充実と更新を行う。出張おはなし会については、学校・園への働きかけを積極的に行うとともに、依頼件数が増加しても応えられるような受入体制を整える。

三つめの柱　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向　3－(1)「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理 （地域行政資料の蔵書冊数）	63,000 冊	65,655 冊	A
②地域資料の保存	・地域行政資料の電子化	継続実施	実施	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域情報の追加及び更新	実施	実施	

実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集した結果、蔵書冊数は目標値を大きく上回ることができた。インターネットで公開する準備を進めていた『大柏川第一調整池緑地だより』は、現在利用しているデジタルアーカイブ・システムが今後のシステム更新により利用できなくなるため、公開を見合わせた。

生涯学習センターが開館 30 周年を迎えたことに合わせて、写真を中心にした「市川市立図書館の 30 年」の記念ページを作成し、ホームページで公開した。また、絵画ラックでも「写真と記事で綴る中央図書館 30 年」、ガラスケース展示では「メディアパーク・関連グッズ紹介」と題して、建設時に出土した貝殻や開館時に配布したグッズ等を展示する等、地域情報の発信を行った。

課　題

地域行政資料を物理的に永く保存していくために十分なスペースの確保が課題である。また、劣化対策として資料の電子化を計画的に進めていくことが重要だが、継続的に利用できるアーカイブのしくみを構築していく必要がある。

方向性

引き続き、地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、資料の充実を図っていく。併せて、地域行政資料の保存のためのスペースを確保する。また、地域資料の整理を行い、パスファインダーの作成やホームページの活用等、広く市民が利用できるような環境を整備する。著作権保護期間満了資料の電子化を計画的に進め、デジタルアーカイブとしての活用方法を検討していく。

施策の方向　3－(2)「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施回数	10 回	33 回	A
	・市の刊行物・作成物等の掲示及び配布件数	50 件	327 件	
②行政各課への情報発信	・図書館刊行物の庁内掲示板への掲載件数	15 件	17 件	

実績と評価

行政各部署や関連団体と連携した行事は、文学ミュージアムやこども館と連携したトワイライトバックツアーや 5 年度から再開された千葉県立現代産業科学館、ニッケコルトンプラザと生涯学習センターの三者間の連携事業「おにたかとらい」等を実施した。また、農業振興課、文化会館、健康支援課や市内学校等と連携した展示を実施し、目標値を上回った。行政の情報窓口として、行政各部署等から依頼があったポスターの掲示やチラシの配布を引き続き実施し、こちらも目標値を大きく上回った。

図書館からの情報発信としては、レファレンスの月報をまとめた「あれこれふぁ（参考業務年報）」を庁内各部に配布したほか、パスファインダーと併せて庁内掲示板に掲載し、目標値を上回った。市の行政各課からの調査依頼には迅速な対応を行った。

課　題

行政各部署に向けて、行政資料・行政情報の収集・整理に努めていること、また図書館機能についても周知していく必要がある。

市民に向けては、図書館が集約している幅広い行政資料・行政情報を整理し、わかりやすい形で迅速に情報提供していくことが課題となる。

方向性

行政各部署に対しては、図書館で利用できるデータベース等のツールを紹介し、図書館のレファレンス機能を地域の課題解決や各部署の事業運営に役立ててもらえるよう継続的に情報発信をしていく。

行政各部署や関連団体等と連携して、図書館利用につながるよう特色ある展示やイベントを企画するとともに、市民生活に必要な行政情報や市川の地域の魅力を市民に積極的に提供していく。

令和６年度　市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見　（別紙）

３つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者（図書館情報学）２名から意見をいただいた。

１．情報拠点として市民の学びを支える図書館

・図書館サービスは高いレベルにあり、図書館有効利用者が目標値の5％を超えたことは高く評価される。一方で、貸出点数が前年度比の5％減となったのは、市民の読書意欲の減退ではなく、資料費がコロナ禍前の水準に復していないため、年間受入冊数が目標値の74％にとどまったことに起因すると思われる。予算の増額は容易ではなく、適切な資料選定や寄贈図書の積極的な受入れにも限度があるだけに、非常に難しい状況に直面している。近年の出版動向に応じて、紙媒体から電子媒体への切り替えなど、予算を有効活用するための様々な試みが早急になされる必要がある。

レファレンスサービスやイベントは、従来からの充実した活動が維持されており、図書館の地道な取り組みに敬意を表したい。図書館友の会をはじめとする市民の方々との連携も従前に復しているだけに、「市民提案型推し活企画」などをさらに進め、市民との協力を単に「協働」の観点だけでなく、市民の「シビックプライド」（市に対して抱く誇りや愛着）に形を与えるものとしてほしい。

・購入冊数が目標値を下回ったことなどから「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」が B 評価となっているが、昨今の状況などからやむを得ない面も大きい。「量」にこだわりすぎず、「質」の確保を大切にする姿勢を担保できれば問題はないと考える。むしろ電子書籍や IC 機器の検討を進めるなど、今後に向けた取り組みも進められており、資料構成の在り方を考えていくことにつなげてほしい。レファレンスサービスにおいても、メールレファレンスの定着など、デジタル環境の普及に応じた変化が見られるなか、非来館型サービスの拡充に向けた検討も進められており、これからの展開に期待が持てる。関連機関などとの「協働」をさらに推進しつつ、「市民の学びを支える情報拠点」として、「市川ならでは」の理想像を描出・更新・共有しつつ、引き続き、丁寧な運営を心がけてほしい。

２．子どもの成長をサポートする図書館

・全国的にすぐれた児童サービスを行ってきたにもかかわらず、厳しい自己評価となったのは、年間受入冊数が前年度比の6％減、学校図書館への配送冊数が目標値の 81％にとどまったことなどによると思われる。資料費の不足、学校図書館間の貸出冊数の減少が主因であるため、図書館の責ばかりとは言えないだけに、児童サービスに対する高い目標を示したものと理解する。

一方で、子どもの本の読書相談が前年度比の5％減、出張おはなし会で小学校からの依頼が2回にとどまったことは、これまでのサービスに改善の余地があることを示している。保護者からの相談は子ども子育て支援施設でも受けやすく、小学校では教員や保護者などによる読み聞かせが行われていることからすれば、図書館としては、関係者に子どもの本の研修会を実施したり、小学校への出張サービスでは読み聞かせではなくブックトークを実施したりすることが望まれる。ヤングアダルトサービスでも、中高校生の利用をさらに促すためには、ビブリオバトルなどのイベント開催を望みたい。

・1．と同じく、「量」にこだわりすぎずに「質」を大切にする方向性が求められている。各種イベントなども充実しており、細部に工夫も見られる。課題として認識されているとおり、より広くサービスを届けていくためことは大切であるが、広報（PR）を増やすだけでなく、負担を大きくしすぎず、日常業務のなかでできる工夫も探っていくとともに、サービスを届けたいが届いていない対象の見極めも必要かもしれない。見極めにあたっては、とくに「読書活動推進計画」に関わって学校等と連携するなかで、連携して取り組んでいくことも有効であろう。

３．地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

・地域資料の収集、保存、発信は公共図書館のきわめて重要な責務であり、図書館はたいへんよく取り組んでいると評価する。一般新刊書と違って目立たないため、その存在が市民に広く認知されていないうえに、保存スペースの確保や資料劣化への対策など、施設面と財政面で特段の対応が求められるだけに、長期的な整備を着実に進めていく必要がある。デジタルアーカイブの推進とともに、市民向け講座と連携した市民の学習活動、学校教育と連携した子どもたちの郷土学習の素材として、その活用を図っていくことが課題となる。

行政情報の提供もまた、図書館の優れた活動の一つであり、行政各部署と連携した行事や展示は、他の自治体を先導するものであると高く評価する。図書館とその関連施設が年間 78 万人を超える集客力をもつだけに、所蔵資料の提供だけではない図書館の付加価値として、場と機会を提供する観点から、娯楽性（楽しい）と啓発性（面白い）の双方から、行政情報の窓口となる多様な試みにチャレンジしてほしい。

・「市川ならでは」の歴史・文化の保存・継承が丁寧に進められている。地域情報の収集・保存・公開という公立図書館の役割が果たされている。デジタルアーカイブを拡充していくことは、今後いっそう求められていくと思われるが、必ずしも図書館単独で展開すべきものばかりではないことを踏まえ、すでに蓄積のある行政資料・情報に係る部分を軸として、行政各部署・関連団体とのさらなる連携・協力のもとに進めていくことも考えられる。

総 評

・自己評価は妥当であると考える。付言すれば、一つ目の柱はBに近いA、二つ目の柱はAに近いB、三つ目の柱は間違いなくAである。

高いレベルの活動を維持するだけでも大変なことであるが、情報環境や利用行動の変化から、サービスの拡大をさらに図らなければならないことも少なくない。図書館のこれまでの取り組みには賞賛の言葉しかないが、限られた人的・財的・物的資源のなかでは、事業内容の再構築はどうしても必要となる。行政の各部署、市内の諸施設、市民の協力を得ながら、市民すべてが誇りと愛着を感じる図書館に育てていってほしい。

・自己評価は適切・妥当である。他図書館（自治体）との比較ではないため、どうしても過去との比較になり、厳しいほうに寄った評価になる傾向になりがちであるが（そのこと自体はむしろ望ましい面もあるが）、各地の図書館運営を鑑みれば、市川市は優れたサービスを市民に提供しているといってよい。市民・地域に存在するニーズには対応していくべきであるが、「よいところを大事にする」という視点も大切にしてほしい。